

1 高知県民を取り巻く防災の現状

高知県民と宮城県民の自然災害に対する防災意識及び行動について比較（図1、2）したところ、「不安を感じている」と答えた割合に差はありませんでした。しかし、防災行動を「何もしていない」と答えた割合は、高知県民が37.9%であるのに対し、宮城県民はわずか7.2%でした。つまり、防災行動を行っている高知県民は、現状62.1%にとどまっています。

また、新型コロナウイルス感染症が収束していない中での、新しい避難所運営についても対策が求められています。

図1 高知県民と宮城県民の自然災害に対する意識調査 (単位:%)

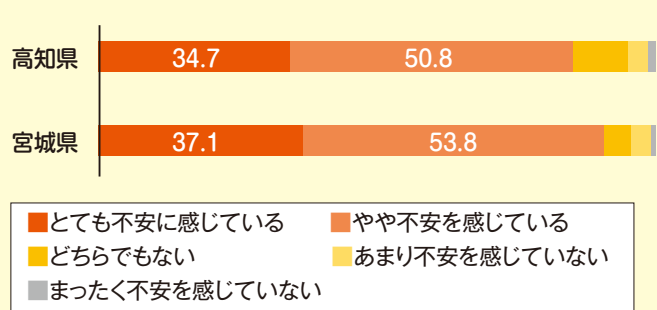
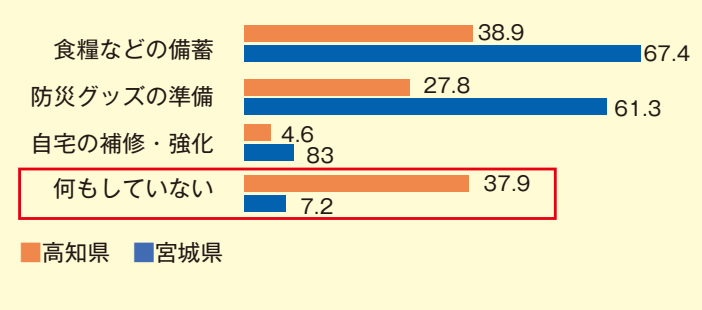


図2 高知県民と宮城県民が行っている防災行動 (単位:%)



せんだいタウン情報machiko「震災に関する意識調査2020」及びTeamBee独自アンケート調査

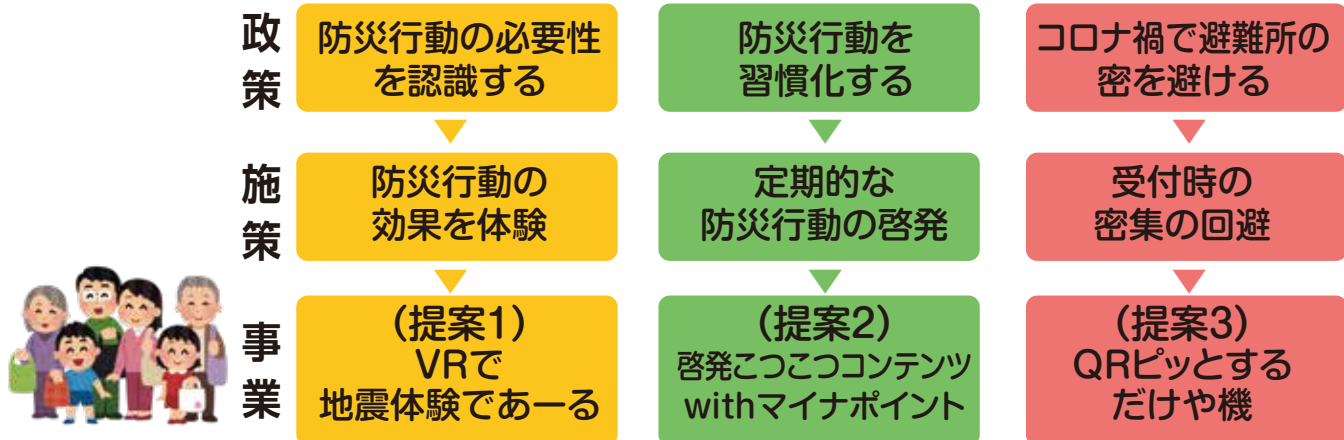
2 原因分析

現状	原因
自然災害に不安を感じているのに、防災行動をしていない	(1) 災害の実体験がない、必要性を感じていないため (2) 防災を意識する習慣がないため
コロナ禍での新しい避難所運営の必要性	(3) 避難者間で密集・密接の状態が発生するため

3 政策提言

以下の政策により

「住民全員（100%）が進んで防災行動をとれるまち」を目指します。



提案1.VRで地震体験であーる

【概要】

地震への備えの有無による効果が比較できる、南海トラフ地震を想定したVR映像コンテンツを提供する事業です。

【コンセプト】

地震の怖さを体験するだけでなく、備えの効果も体験することで、その必要性を意識できます。

様々な場面をCGで表現可能なVRの利点を活かし、地震への備えや被災状況に応じたコンテンツを提供します。



被災状況	映像内容 (地震への備えが無い場合の被害)	地震への備え
地震(日中)	リビングで食事中に地震が起きる(家具が倒れ、窓ガラスが割れる)	家具の固定 窓ガラスの防護シート
地震(就寝中)	就寝中に地震が起きる(暗闇の中、逃げられない)	ヘルメットやライトの用意
地震後津波発生	地震後高台や津波タワーへ逃げる(避難経路がわからない)	避難場所の把握

提案2.啓発こつこつコンテンツ with マイナポイント

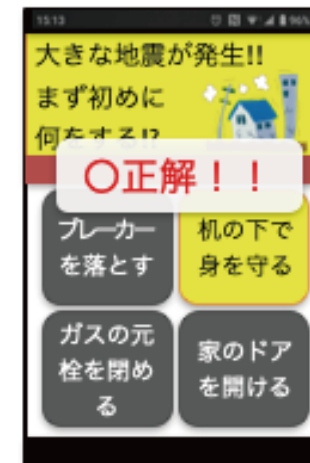
【概要】

以下のコンテンツをアプリで提供する事業です。

- 防災行動（日頃の備え、食料品の備蓄の推進）を啓発するプッシュ通知（毎月1回）
- 防災啓発動画の配信（随時）
- 防災に関するクイズの配信（随時）

【コンセプト】

②、③の利用に応じてマイナポイントを付与することで、能動的なアプリの利用を促進します。日常に防災を意識するきっかけをつくり、防災行動を習慣化することを可能とします。



提案3.QRピットとするだけや機

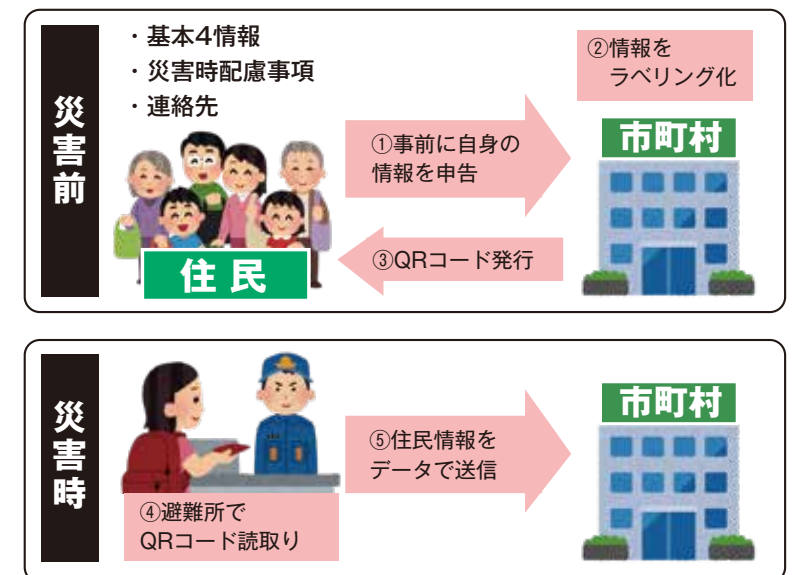
【概要】

避難所の受付時の密集を回避する事業です。

- 災害前
住民が自身の情報を市町村に事前申告します。その際に市町村から発行されるQRコードを、災害時に備えて保持します。
- 災害時（避難所受付時）
住民がQRコードを提示することで、市町村に短時間で自身の情報を伝えることができます。

【コンセプト】

受付時の対面でのヒアリングが、QRコードの提示に変わること、待機する避難者間の密集・密接を避け、濃厚接触のリスクを軽減します。





Aiming for a town
where all residents are willing to take
disaster prevention actions

住民全員 (100%) が進んで 防災行動をとれるまちを目指して

ICT を活用した政策で、防災行動 ^{ナシ} 0 はもうお・し・ま・い です!



高知市
商工振興課
上田 悠生

安芸市
総務課
上総 祐司

政策指導
(一社)日本経営協会 講師
(株)ヒロ・マネジメント
代表取締役
田中 浩

大豊町
住民課
市田 彩香

梶原町
総務課
辻本 修丞

◀◀◀◀ 令和2年度 ▶▶▶▶

政策研究共同研修 企画書

Team Bee



こうち人づくり広域連合

〒780-0870 高知市本町4丁目1-35 高知県自治会館 4階
TEL 088-873-0333 FAX 088-872-7716